

「女性の日」について

1 「女性の日」創設及び経過

(1) 「女性の日」創設について

「日頃裏方役を引き受けることの多い女性に感謝すると共に、男女共同参画社会をさらに発展させる契機」として平成 22 年度に「女性の日」を創設

※参考資料 1 前市長コラム（平成 22 年〔2010 年〕1 月 15 日号ほか）参照

(2) 創設に当たっては、男女共同参画審議会委員に「女性の日」創設に関する意見を求める。

※参考資料 2 「女性の日」創設に関する意見・企画・提案について 参照

2 「女性の日」事業の変遷

(1) 平成 22 年度から毎年、講演会等を実施

※参考資料 3 「女性の日」事業実施経過 参照

(2) 山陽小野田市男女共同参画宣言都市

平成 24 年 9 月 24 日に文化会館で内閣府と市の主催で記念式典を開催

※参考資料 4 男女共同参画宣言都市記念式典報告書〔抜粋〕参照

3 「女性の日」に関する市議会指摘・答弁

※参考資料 5 「女性の日」に関する市議会における主な指摘等

一般会計予算決算常任委員会記録 参照

「女性の日」に関する市議会における主な指摘等

●平成 24 年度一般会計予算審査特別委員長報告

女性の日事業につきましては、「男女共同参画に対する目標とか課題は納得はできるが、名称については再考するように」という強い声がございました。

●平成 23 年 3 月定例会一般質問（岩本信子議員）

「女性の日」という創設事業であります。ネーミングを変えて「女と男の日」くらいとかして、やはり事業継続を図るということも大事ではないかと思えます。

●平成 22 年 12 月定例会一般質問（河野朋子議員）

日ごろとかく裏方役を引き受けることの多い女性に対し感謝する「女性の日」をつくらうと、市長の提案でつくられました。この創設については、議会でもこれまで数人の議員が、この「女性の日」というネーミングそのものや、「日ごろ裏方役を引き受けることの多い女性に感謝」という表現などについて取り上げられており、（中略）そして市民の中にも実際賛否両論あることが事実であります。

●平成 22 年 3 月定例会一般質問（岩本信子議員）

市長が公約されている「女性の日」の創設についてですが、いろいろな人がいろいろな考えで賛否両論出ること、男女共同参画社会が実現していれば当然起こり得る問題だと考えます。まだまだ男尊女卑慣習がしみついている社会で、男女共同参画社会を発展させる契機とされる趣旨は理解できるのですが、「日ごろ裏方を引き受けることの多い女性に感謝」という言葉そのものが差別意識を容認するように聞こえるのは私だけでしょうか。「日ごろ表で無理難題に取り組んでいる男性または女性に感謝はどうなの」と考えます。男女共同参画社会は人権尊重の社会でもあります。自分らしく、自分らしさを自信を持って表現できる自由な心と、違う人を思う思いやりが輝いて生きるにつながると考えます。このようなことを少しでも考える意識が大切ではないでしょうか。